

令和6年度 滑川市行政改革懇談会 議事概要

日時：令和7年2月18日（火） 18：00～19：30

場所：滑川市役所東別館3階中会議室

【委員】

役職	氏名	備考
国立大学法人 監事	山西潤一	会長
滑川市自治会連合会 会長	松井正嗣	
株式会社TAM 専務取締役	稲場康晴	
一般社団法人ばいこ村 代表理事	樋口幸男	
公募委員	古野知晴	
滑川商工会議所 副会頭	八橋謙二	欠席

【滑川市】

滑川市長	水野達夫	
滑川市副市長	柿沢昌宏	
滑川市教育長	上田良美	
滑川市総務部長	石川久勝	
滑川市産業民生部長	黒川茂樹	
滑川市建設部長	岩城義隆	
滑川市教育委員会事務局長	上田博之	
滑川市健康福祉部長	石川美香	欠席

【議題次第】

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 会長選出
- 4 協議事項
 - (1) 第7次滑川市行政改革大綱実施計画の進捗状況について
 - (2) 第8次滑川市行政改革大綱（素案）について
 - (3) 第8次滑川市行政改革大綱実施計画（素案）について
- 5 今後のスケジュール
- 6 閉 会

主な発言内容

□市長あいさつ

□会長選出

事務局：滑川市行政改革懇談会設置要綱第4条の規定により、会長は、委員の互選により選出されることとなっている。会長の選任に関して意見を伺う。

委員：山西委員を推薦する。

事務局：山西委員を会長に推薦する旨の発言があったが、他の意見を伺う。（異議なし）

事務局：ご異議なしと認め、山西委員に会長をお願いする。

会長：それでは次第に沿って進める。まず「第7次滑川市行政改革大綱実施計画の進捗状況」について、事務局から説明されたい。

□事務局説明（資料に基づき、第7次滑川市行政改革大綱実施計画の進捗状況を説明）

□説明事項の質疑応答

委員：「ふるさと納税制度の推進」について、ふるさと納税の納税額が大幅に増えた要因は。

市長：ポータルサイトを2つから5つに増やし、返礼品の品目数も拡大した。ほたるいかと蟹が人気だが、2品目に頼らない返礼品を模索中である。

委員：体験型の返礼品はあるか。また、米の返礼品もあるが、米の価格高騰による返礼品の需要は。

市長：主なものとして、龍宮まつり花火大会の特別観覧席がある。物の返礼品と比べて、体験型の返礼品は少ないので、ぜひ返礼品のアイデアをいただきたい。

米の返礼品については、ほたるいか米のほか、東加積地区で栽培している米もあり、人気がある。

委員：「経営視点に立った財政運営」とあるが、市の財政現状は。

副市長：債務よりも貯金が増えている。交付税措置があるような有利な起債を活用し、債務累積が増えないよう財政運営している。

委員：「未来技術の活用」について、AIやRPAはどのようなことに活用しているのか。

総務部長：例えば、税の口座振替先の登録や情報入力で活用している。

- 委員：今後、マニュアルに書ける仕事はA I で対応し、マニュアルに書けない創造的な仕事を職員が行っていく必要がある。
- 委員：「行政手続のオンライン化の推進」について、オンラインでできる手続が約 150 件に拡大したが、今後の基幹システムの標準化に伴い、新システムと連動できずに手戻りが起こる可能性もあるが、そのあたりの評価は実施しているか。また標準化により、これまでより余計に費用がかかると聞いているがどうか。
- 市長：DX推進課において検討しながら進めている。費用は、インシヤルコストはほとんど国費で対応。ランニングコストは約 3 倍になるが、今のところ国の支援はないので、全国市長会が声を上げている。
- 委員：今のうちから、今後のコストやリスクを把握し、投資する部分とコスト削減する部分の整理を。
- 委員：マイナポータルでできる手続が分からないとの声があるので、マイナンバーカードの交付時に、マイナポータルで可能な手続をよりPRすべき。
- 委員：昨年度、別の会合で、市の職員数を増やすと言っていたが、その後の状況は。
- 市長：令和 5 年度は 211 人、令和 6 年度は 227 人、令和 7 年度は採用予定者を含めて 237 人。2 年間で 26 人を増員した。
- 委員：面積や人口規模が類似している自治体を調べたところ、職員数が滑川市よりも 100 人ほど多い。今後、公民連携を進めていくにあたり、行政側に動ける職員が足りないのではないか。
- 市長：DXを推進し、マニュアルどおりの仕事はデジタル技術の活用により負担を減らしつつ、政策を考える創造的な職員を育成することで、地域課題の解決に繋げたい。

□事務局説明（資料に基づき、第 8 次滑川市行政改革大綱（素案）及び実施計画（素案）を説明）

□説明事項の質疑応答

- 委員：「職員のメンタルヘルス対策」について、現在、病気休暇を取得している職員はいるか。
- 総務課長：少数だが、病気休暇を取得している職員はいる。定期的に面談を実施し、復職に向け取り組んでいる。
- 委員：「自主防災組織の育成及び避難体制の確立」について、ハザードマップの改定や全世帯への配布の予定は。

- 市長：洪水ハザードマップについて、令和7年度中に改定し、全世界帯へ配布予定。
- 委員：同じく防災について、9月の能登地方の豪雨の際、滑川市は防災危機管理課がすぐに物資支援を実施した。非常に素晴らしい取組なので、もっとPRすべき。
- また、滑川市には防災士連絡協議会などの各種団体があるが、団体同士の横のつながりが残念。市で音頭をとって、情報交換する機会を設けてほしい。
- 市長：ご提案の方向で進めるよう、防災危機管理課に伝える。
- 委員：「出張版市長と語らんまいけの開催」について、先日、女性向けの「市長と語らんまいけ」を実施いただいた。話しやすい雰囲気、参加者が喜んでいて、参加していない知人からも、ぜひ参加したいとの声がある。今後も積極的に開催してほしい。
- 委員：同じく、周りで「市長と語らんまいけ」の評判がよい。堅苦しくないのが良い。
- 市長：最近も、障がいを持つ子の保護者向けの「市長と語らんまいけ」を実施し、市民の気持ちが伝わってきた。今後も、少人数での実施を続けたい。
- 委員：まさしく「市民起点」の取組である。人口減少時代において流入人口を増やすにあたっては、教育も人を集める手段になる。例えば、県外の公立学校で、グローバル人材を育成する教育を推進し、全国から移住が増えている事例がある。あらゆるまちの魅力をPRすることが大切。
- 委員：実施計画の進捗評価の際、個別の取組目標の達成状況を踏まえ、定期的に他の取組項目との横断的な評価を実施することで、複数の視点が重なり、事業としての効果が大きくなる。
- また、横の連携という観点で、子育て世代は学校関係など子どもに関する手続を行うことが多いが、教育委員会のデジタル化も推進してほしい。
- 委員：AIの活用について、ホームページで探したい情報を対話型で検索できる仕組みの導入について、デジタル関係の項目の中で取り組んでほしい。
- 委員：各課におけるDXを全庁で連携させ、どう新しいサービスを生み出せるかを考えてほしい。
- 委員：学校のお知らせを安全メールで送ることはできないか。

- 教 育 長 : 安全メールでお知らせしている学校もあるが、学校によって送信する内容に差があるので、周知したい。
- 委 員 員 : 先生によって、デジタル活用スキルに差があるので、スキルの横展開も必要である。
- 委 員 員 : 「協働を進めるための財政的な支援、活動拠点の整備等」における「活動拠点」とは何を指すのか。
- 副 市 長 : 町内会やNPO団体などを指す。
- 委 員 員 : 「カーボンニュートラル」「AI」「RPA」などについて、分からない人の視点に立った表記にしたほうがよい。
- 事 務 局 : ご意見を踏まえ、事務局において検討する。
- 委 員 員 : 滑川市におけるSDGsの主な取組は。
- 市 長 : 新年度の主な取組として、「藻場の再生調査」「小水力発電、太陽光発電の調査」「地場産再生エネルギーの利用」「公共施設、街灯のLED化」を実施する。
- 委 員 員 : スマホの普及率が上がっているので、例えば「ChatGPT」を全ての市民に普及する取組を滑川市が率先して行えば、先進的なまちになるのではないか。
- 市 長 : 新年度に、デジタル機器を持たない・使えない方への情報伝達の実証実験を実施する。高齢者世帯などにタブレットを配布し、市職員や民生委員等がサポートしながら、タブレットを通して対話する実験である。実証実験の効果も踏まえ、やがて、ご提案のような先進的なまちづくりに繋がればよい。
- 委 員 員 : デジタルリテラシーが上がれば、1人暮らし世帯の見守りなどにも活用できる。今のスマホは、OSの中にAIが組み込まれているので、そのAI機能などを啓発できる事業があれば、先進的なまちに繋がるきっかけになる。
- 会 長 : ほかに意見がなければ、事務局からスケジュールについて説明されたい。
- 事 務 局 : 本日いただいたご意見は、事務局で検討し、反映できるものから対応していきたい。
それでは、最後に今後のスケジュールについて説明する。

□事務局説明（今後のスケジュールを説明）

□閉会

- 事 務 局 : 本日は、これにて閉会する。

